

経済水道委員会

説明資料

第20回アジア競技大会の招致について

平成28年6月9日
観光文化交流局

目 次

	頁
1 これまでの経緯	1
2 アジア競技大会を招致する意義	2
3 アジア競技大会の概要（原則4年ごとに開催）	2
4 アジア競技大会の開催実績等	3
5 名古屋市内における競技会場等の候補	4
6 開催に必要な経費	5
7 OCA提出用開催構想策定に向けた主な検討事項	5
8 今後の想定スケジュール	5

1 これまでの経緯

区 分	内 容
平成26年6月23日	愛知県議会において、知事が、アジア競技大会招致を前向きに検討する旨の答弁
平成27年12月7日	
平成28年3月8日	2月市会本会議において、市長が、アジア競技大会の招致について、県と一緒に努力する旨の答弁
平成28年3月17日	愛知県から、アジア競技大会を共同で招致したい旨の申し入れ
平成28年3月24日	愛知県に対し、共同で招致を行う方針を伝達
平成28年3月29日	日本オリンピック委員会（JOC）の理事会において、第20回アジア競技大会を日本に招致するため、アジアオリンピック評議会（OCA）憲章に規定する期限より2年早い平成28年のOCA総会で承認されるよう、国内立候補都市を公募することを決定
平成28年3月30日	JOCが第20回アジア競技大会国内立候補都市の公募を開始
平成28年5月11日	市長知事共同記者会見「第20回アジア競技大会への立候補について」
平成28年5月13日	JOCに立候補意思表明書を提出（県市連名）
平成28年5月18日	県内市町村長及び関係競技団体代表者会議の開催
平成28年5月30日	JOCに開催構想Version. 1を提出

5 名古屋市内的における競技会場等の候補

区 分		競技種目等	
市 有	瑞穂公園陸上競技場（メイン会場）	開会式、閉会式、陸上競技	
	瑞穂公園ラグビー場	ラグビー	
	（仮称）瑞穂公園体育館	セパタクロー	
	名古屋市総合体育館	レインボープール	水泳、近代五種
		レインボーホール	体操
	港サッカー場	サッカー	
	名古屋市稲永スポーツセンター	ハンドボール	
	名古屋市枇杷島スポーツセンター	テコンドー	
	名古屋市東山公園テニスセンター	テニス、ソフトテニス	
	名古屋市中企業振興会館（吹上ホール）	ウエイトリフティング	
名古屋市国際展示場（ポートメッセなごや）	メインメディアセンター、 スポーツクライミング		
県 有	愛知県体育館	バレーボール	
	愛知県武道館	マーシャルアーツ（空手等）	
そ の 他	愛知カンツリー倶楽部	ゴルフ	
	テバオーシャンアリーナ	ハンドボール	
	ナゴヤドーム	野球、ソフトボール	

注 開催までの間に関係者との調整により変更される可能性がある

2 アジア競技大会を招致する意義

- ・スポーツの公平な競争を通じ、国際的な尊敬、友情、親善、平和の促進に寄与するというOCAの崇高な理念の普及、継承に貢献する
- ・平成39年度に東京-名古屋間において予定されている「リニア中央新幹線」の開業前後に開催することにより、世界初の超電導リニアプロジェクトをアジアに発信する
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックに続く、日本のスポーツ界の次なる目標となり、愛知・名古屋はもとより、日本全体の成長に貢献する
- ・成長著しいアジア地域と愛知・名古屋とのより強固な連携を構築する
- ・スポーツの振興や国際交流の促進、大会開催を通じた人づくり、交流人口の拡大や国際競争力の強化など様々な効果を生み出し、名古屋の都市魅力の向上に資する

3 アジア競技大会の概要（原則4年ごとに開催）

区 分	内 容
主催者	アジアオリンピック評議会（OCA）
開催期間	開閉会式を含め12日以上16日以下
参 加	OCA加盟45カ国・地域から選手・役員約16,000人
実施競技	35競技
備 考	名古屋市及び愛知県は第20回アジア競技大会（平成38年開催予定）の開催都市に立候補

注 JOCホームページより

4 アジア競技大会の開催実績等

(1) 直近3大会の開催実績及び今後開催予定の大会

回	開催年	開催国 (都市)	参加国 及び 地域	参加選手数	観客数
15	2006年 (平成18年)	カタール (ドーハ)	45	9,520人	—
16	2010年 (平成22年)	中国 (広州)	45	9,704人	—
17	2014年 (平成26年)	韓国 (仁川)	45	9,501人	1,525,000人
18	2018年 (平成30年)	インドネシア (ジャカルタ)	45		
19	2022年 (平成34年)	中国 (杭州)	45		

注 観客数については「第17回アジア競技大会公式報告書」より
観客数以外についてはOCAホームページより

(2) 国内での開催実績

回	開催年	開催都市	参加国 及び 地域	参加選手数	観客数
3	1958年 (昭和33年)	東京	16	1,820人	—
12	1994年 (平成6年)	広島	42	6,828人	1,118,591人

注 観客数については「第12回アジア競技大会公式報告書」より
観客数以外についてはOCAホームページより

6 開催に必要な経費

区 分	内 容
大会運営費	入場料、企業協賛、メディア放映権料等の収入及び愛知県・名古屋市の負担金により賄う (過去の仁川大会及び広島大会での例を参考に積算中)
過去の事例	<ul style="list-style-type: none"> ・第17回アジア競技大会(2014年(平成26年)／仁川) 約471億円 ※1ウォン=0.1円と換算 ・第12回アジア競技大会(1994年(平成6年)／広島) 約278億円
施設改修費	国際基準に対応するための施設改修費等が必要 (今後のJOCとの協議等により仕様を固めたうえで積算)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・上記以外に、OCAへの支払金(招致金、保証金)が必要 ・関係省庁への要望提出など、国家予算の獲得に努める

7 OCA提出用開催構想策定に向けた主な検討事項

<ul style="list-style-type: none"> ・会場候補施設の整備、改修の内容 ・選手村の整備内容 ・収支計画 ・招致体制の構築
--

8 今後の想定スケジュール

区 分	内 容
平成28年7月頃	JOC等による視察
平成28年8月末頃	OCA提出用開催構想策定
平成28年9月25日	第35回OCA総会(ベトナム・ダナン)において立候補意思表示

注 開催都市は、早ければ第35回OCA総会で決定する